

### 議会改革推進

7/13・8/12開催

### 行財政改革推進

7/28開催

# 特別委員会 委員長報告

## 行財政改革推進 特別委員会

### 交通安全協会の 補助金

交通安全協会は昭和二十八年社団法人化以降、県下に十六支部が組織され、交通安全運動を行っている。

本市の補助金百八十万円は、旧三町村の合計額を継続しているものである。新聞報道の積立金の内訳は本部で七千万円、支部合計は二億円で、香美支部は五百三十万円で、補助金支出は本年度は現状どおりとし、会計等精査し、削減の方向もありうる。

特に本部より事務委託の免許更新業務は独立採算にて行うべきで、本会計からの繰り出しには問題点がある等の指摘があった。



### 香美市 定住対策(案)

構想案は定住のためのニーズを職・住まい・交流・利便性の四つの視点から捉え、施策展開を考えている。

定住対策の枠組みと支援制度は新しい自治機能づくり、新しい公共交通対策の構築や就業促進支援、農林商工業後継者育成対策などについて具体的な内容が示された。都市計画、線引き見直し等について議論がなされた。

## 議会改革推進 特別委員会

### 適正な議員報酬 ・議員定数

委員以外の二名の議員より現報酬の削減案が示され、協議した。

また、委員の中からも財政を考慮し、地方交付税の通減に合わせ一〇%の削減案が示された。大方の意見として人口、面積、予算規模、同規模団体との比較等により報酬を決定すべ

きとの認識が示された。定数についても明確な算定基準がないことから、議員自らの提案で可否を議決するとの結論に至った。意見として、二、四名の削減案と現状維持との意見が拮抗し、本委員会では結論を出すことは困難との判断から、全員協議会において審議することとした。

### 議会各会派

平成二十三年九月一日付で次のように会派届けがなされた。

市民クラブ				自由クラブ			
山本芳男	有元和哉	利根真幹	爲近初二	竹平豊久	矢野公昭	小島信彦	夫
千頭洋一	依光美代子	石川彰宏	竹内俊夫	山崎龍太郎	濱田百合子	片岡守春	大山真弓子
公明党				日本共産党と くらしと福祉を守る会			
比与森光俊	織田秀幸						

※香美市会派名簿色付き=代表者



# 雲の上のまち 栲原町で 8/19

## 予防重視の保健活動と 木質バイオマス事業を視察調査

住民との協働で  
健康の里づくり  
(教育厚生常任委員会)

① 保険・福祉・医療サービスを総合的、一体的に提供できるように同じ場所に、保険福祉センター（健康増進係、福祉係、介護医療係、地域包括支援等）と国保栲原病院を置き、連携を密にすることで、きめ細かな支援ができています。

② 受診率向上を目的に推進員制度が始まり、区長の推薦で二十世帯に一人の推進員を選定し、健康についての研修を経て検診の準備や問診票の個別配布、一人がもう一人を連れてくる「まるやかな声かけ運動」を実施している。

健康文化の里づくり推進員は三十五年間継続され、延べ千三百三十四人に達している。

③ 昨年の健診受診率は七四・八％で県下一位、国保医療費の抑制効果は同三位、国保税や介護保険料も低い水準に抑えられている。がんばり続ける方も少ないとの報告があった。

### 木質バイオマス 地域循環モデル事業 (産業建設常任委員会)

栲原町では森、水、風、光を生かしたまちづくりを進め、森林資源の循環利用の一環として「木質バイオマス地域循環モデル事業」を導入。その一過程に木質ペレットの製造がある。製造した木質ペ

レットは家庭用ペレットストーブ、ハウス用ボイラー、町内の施設等の燃料とし、焼却灰は農地や林地に還元し循環させている。化石燃料から自然エネルギーにシフトすることにより、町内での雇用創



木質バイオマス視察（栲原町にて）

出や経済が循環。林業の活性化、CO2の削減効果もあるとのこと。

栲原町の森林面積は九一％で、資源の有効活用、循環利用の取り組みは非常に参考になるものであるが、木質ペレット用のストーブの価格は通常の四―五倍であり、補助金等なければ普及は進まないようである。

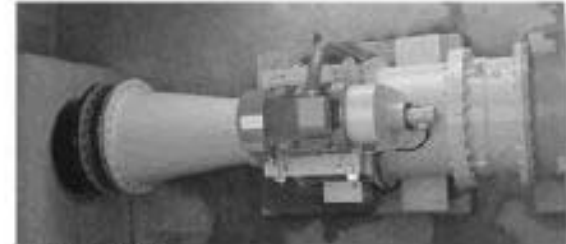


町産材をふんだんに使った栲原庁舎は玄関を大きく開き、お客様と自然の風を迎えたい。

室内での研修の後、栲原川にかかる小水力発電施設にもご案内いただいた。

電気料の要らないまちを目指し、山頂には風力発電、家屋には太陽光発電パネルがたくさん。人にも地球にも優しい住みたくなるまちである。

(委員)



小水力発電機